



# 地域資源の適切な保安全管理の推進

平地農業地域



キーワード

地域資源の保安全管理

組織の広域化・体制強化

事務負担の軽減

かんきょうほぜんこういききょうてい しみずちょう

## しみず環境保全広域協定 (北海道清水町)

- 清水町では、12の活動組織による保安全管理活動が行われてきたが、高齢化や後継者不足により活動終了となる組織も出るなど、適切な地域資源の保安全管理が困難となっていた。
- このため、各々の活動組織で行っていた事務作業の負担軽減を目的に、事務を委託するとともに、広域化による組織体制の強化を図った。
- これにより、農業者は事務処理の負担が軽減されるとともに、計画的な維持補修体制が構築されるなど、施設の適切な保安全管理が図られた。

【地区概要】※R4年度時点

- ・ 認定農用地面積 6,013ha (畑 4,090ha、草地 1,923ha)
- ・ 資源量 水路 106km、農道 102km
- ・ 主な構成員 農業者、自治会、女性会、子供会
- ・ 交付金 約 60百万円 (R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

### 活動開始前の状況や課題

- 本地域は、高齢化や後継者不足により、事務処理を担う人材確保に苦勞しており、活動終了となる組織も出るなど、適切な地域資源の保安全管理が困難になっていた。
- 保安全管理する水路や農道は大規模なものもあり法面の斜面が長いことなどから作業が負担となり、安全性の確保も課題となっていた。



農道側溝の雑木伐採

### 取組内容

- 事務作業の委託により、負担軽減を図るとともに、町内の9組織が広域化することにより組織体制の強化を図った。
- 保全活動（土砂上げ、法面補修、敷砂利等）の外注等による大規模組織ならではの維持補修体制を構築。



農道の敷砂利

### 取組の効果

- 事務作業の委託により農業者の事務負担の軽減が図られ、保全活動や営農に専念することが可能。
- 〈日報等の整理に要する事務作業時間〉

広域化前	月40時間
広域化後	作業なし (委託)

大幅に削減
- 広域化後は各組織の代表者による点検で補修箇所を決定して、適期の対応が可能となった。



施設の点検



外注による水路の泥上げ

くりやまちょうためんてききのうすいしんきょうぎかいこういききょうてい

くりやまちょう

### 栗山町多面的機能推進協議会広域協定

(北海道栗山町)

- 中山間地域で傾斜地が多い本地域では、雪解けや大雨時に土砂が流出し、年間を通して土砂上げに多くの労力を費やしていた。
- このため、資源向上支払（長寿命化）の取組により、土水路をコンクリートトラフに更新し、施設の機能増進を図った。
- これにより、土砂上げ作業の労力が削減され、維持管理の労力が大幅に軽減された。

#### 【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 5,190ha  
(田 3,672ha、畑 1,518ha)
- ・資源量 水路 336km、農道 215km  
ため池 23箇所
- ・主な構成員 農業者、土地改良区  
農業振興公社
- ・交付金 約 165百万円(R4)

農地維持  
支払

資源向上  
支払  
(共同)

資源向上  
支払  
(長寿命化)

#### 活動開始前の状況や課題

- 本地域は、傾斜地であり、雪解けや大雨時に土砂が流出し、年間を通して堆積した土砂上げに多くの労力を費やしていた。
- 土砂が流出する水路は未整備の土水路であり、早急にコンクリートトラフに更新し施設の機能増進を図る必要があった。

#### 取組内容



- 資源向上支払（長寿命化）の取組により、土水路をコンクリートトラフに順次、更新。



施行前



施行中

#### 取組の効果

- 土砂上げに要する時間(春)  
R2 4時間×2回/年×4人=32時間  
R3 土砂の堆積がなく、作業時間なし  
R4 土砂の堆積がなく、作業時間なし  
(※ R2施工 L=600mの排水路の場合)
- 土砂の堆積がなくなったことにより、維持管理の労力が大幅に軽減。



施行後



ちゅうおう・かみなよろちくしげんほごたい しもかわちよう  
中央・上名寄地区資源保護隊 (北海道下川町)

- 本地域は、過疎化・高齢化などの進行に伴う集落機能の低下により、地域資源の適切な保全管理が困難となりつつあった。
- このため、農業者だけではなく地域住民や関係団体等が幅広く参加する活動組織を設立し、施設の簡易補修のほか農村の自然環境や景観を守る共同活動を地域に根付かせている。
- これにより、近年、頻出している有害鳥獣アライグマの農作物被害の対策を講じる際には、多くの農業者や関係者の協力を得ながら、定点暗視カメラや箱わなの設置を進めている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 293ha (田 293ha)
- ・資源量 水路 71km、農道 35km
- ・主な構成員 農業者、公区、土地改良区等
- ・交付金 約 14百万円 (R4)

農地維持  
支払

資源向上  
支払  
(共同)

資源向上  
支払  
(長寿命化)

### 活動開始前の状況や課題

- 本地域は、過疎化・高齢化などの進行に伴う集落機能の低下により、地域資源の適切な保全管理が困難となりつつあった。
- 近年は、有害鳥獣アライグマの頻出により、農作物被害が増加している。



景観美化の花壇植栽



農道の草刈り  
共同作業

### 取組内容



- 共同作業に地域住民や関係団体等が幅広く参加し、農道では砂利補充、水路では泥上げ作業及び老朽化した水路の補修工事を実施している。
- 定点暗視カメラでアライグマの生態を監視し出没箇所には箱わなを設置し、農作物被害の軽減を図っている。



### 取組の効果

- 維持管理の不十分な施設は減少し、水路の漏水等は解消されつつあり、減災体制も強化された。
- カメラ40台と箱わな3個を設置した対策により、令和2年度:4匹、令和3年度:21匹、令和4年度:13匹捕獲。
- 農業被害の軽減のほか、安定した農業生産環境の維持、地域の有害鳥獣対策への意識向上が図られている。

定点暗視カメラ設置撮影状況





**【地区概要】※R4年度時点**

- ・認定農用地面積 17,257ha  
(田 15,368ha、畑 1,873ha、草地 16ha)
- ・資源量 水路 2,980km、農道1,185km  
ため池 9ヶ所
- ・主な構成員 農業者、自治会、JA  
女性会、農事組合法人 など
- ・交付金 約 638百万円(R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

いわみざわしこういききょうてい  
岩見沢市広域協定 (北海道岩見沢市)

- 本地域では、大雨時に農業用排水路や小河川の溢水のおそれがあるなど、洪水対策が地域の大きな課題となっていた。
- このため、『災害に備えて活力のある農業・農村』を目指して、田んぼダム用堰板を設置するなど平成30年度から本格的に田んぼダムの取組を開始。
- これにより、大雨時に排水路への流出が抑制されるなど、地域の防災・減災に寄与している。

### 活動開始前の状況や課題

- 本地域は、石狩川の中下流域で河川の合流も多く、大雨時に農業用排水路や小河川の溢水のおそれがあるなど洪水対策が地域の大きな課題となっていた。
- 市内に15箇所ある農業用排水機場は、近年の気候変動の影響から稼働回数が多くなり、機場への負荷も懸念されていた。



取組区域図

### 取組内容

- 水田の落ち口にV字型の田んぼダム用堰板を設置し、水田の雨水貯留機能を活用した田んぼダムの取組を開始。  
※ 取組面積770ha(R4時点)

田んぼダム用堰板



降雨時は、V字部分の断面に応じて排水されるため、堰板操作が不要。(最大で10cmの雨水の貯留が可能)



通常時



降雨後

### 取組の効果

- 試験等により降雨時のピーク排水量が50%減、降雨終了時点の総排水量は40%減の効果が得られ、以下のような効果が認められた。
- 田んぼダム用堰板の活用により、大雨時の堰板操作や田んぼの見回りが不要となるなど農業者の負担軽減が図られた。
- 大雨時に排水路への流出が抑制されることにより、排水機場の負荷軽減が図られるなど、地域の防災・減災に寄与している。

排水機場の負荷軽減





とうろちくかんきょうほぜんかい あっさぶちょう  
当路地区環境保全会 (北海道厚沢部町)

- 本地域は、高齢化や後継者不足等による担い手農業者の経営面積増加により、地域資源の保安全管理が大きな負担となっていた。
- このため、平成26年度から本交付金に取り組むこととし、29年度からは地域コミュニティの取組を強化するため、清掃活動、植栽活動や鹿子舞保存会との連携による農村文化伝承活動に取組。
- これにより、地域内交流が活発となり世代間交流の増加など、地域コミュニティの維持、強化に繋がっている。

### 【地区概要】※R4年度時点

- ・ 認定農用地面積 136ha (田 136ha)
- ・ 資源量 水路 24km、農道 7km  
ため池 1ヶ所
- ・ 主な構成員 農業者、老人クラブ、鹿子舞保存会
- ・ 交付金 約 5百万円 (R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

### 活動開始前の状況や課題

- 本地域は、地域住民の減少や高齢化の進行により、担い手農家の経営面積が増加し、農地や施設の管理が手薄となっていた。
- 施設の保安全管理や地域の花壇づくりは自費で実施していた。
- 地域コミュニティが希薄となりつつあり、集落機能の低下が懸念されていた。



### 取組内容

- 法面の草刈や外注も活用した農道の砂利敷きなど地域資源の保安全管理活動を実施。
- 地域内交流を目的に町内会や老人クラブと連携した清掃活動や植栽活動を実施。
- 鹿子舞保存会と連携し、農村文化伝承活動に取組み、町新年交流会で披露するなど農村コミュニティを強化。



清掃活動



農道の砂利敷き

### 取組の効果

- 施設の補修等が容易に行え、適切な保安全管理が可能となった。
- 活動を通じて地域住民が集まる機会が増え町内会や老人クラブなど団体間の交流が活発となった。
- 農村文化伝承活動を通じて、世代間交流が増加することで、過疎化が進行する中でも保存会員数を確保することができた。



伝統芸能の鹿子舞

- 地域住民人口 (H26) (R5)  
109人 → 82人  
※25%の減少
- 保存会員数 (H29) (R4)  
17人 → 17人  
※増減なし



### ほくりゆうちょうかつどうそしき 北竜町活動組織

### ほくりゆうちょう (北海道北竜町)

- 本地域は、農家戸数の減少などから施設等の保安全管理が困難となっていた。また、景観形成として実施していたひまわりの植栽は、個々に実施し点在していた。
- このため、活動組織による共同活動を実施するとともに、ひまわりの植栽を景観形成活動の一環として共同活動に位置づけ集約化などに取組。
- これにより、保安全管理労力の低減に繋がるとともに、景観形成活動は町づくりのシンボルとしてブランド化。農産物の高付加価値化や6次産業化に寄与している。

#### 【地区概要】※R4年度時点

- ・ 認定農用地面積 2,788ha  
(田 2,470ha、畑 317ha)
- ・ 資源量 水路 207km、農道 85km
- ・ 主な構成員 農業者、自治会、JA、商工会 など
- ・ 交付金 約 97百万円 (R4)

農地維持  
支払

資源向上  
支払  
(共同)

資源向上  
支払  
(長寿命化)

#### 活動開始前の状況や課題

- 本地域は、農家戸数の減少により、各農家が実施する施設等の保安全管理が困難となっていた。
- 景観形成、町のシンボルとして各農家が農地でひまわりの植栽を開始していたが、植栽範囲が点在しており、集約化が課題となっていた。



播種風景



ひまわり開花風景

#### 取組内容



- 施設等の保安全管理について、共同活動による管理体制を確立するため、活動組織を設立。
- 「ひまわりの里」を核とした植栽が町全域で推進されていたが、ひまわりの植栽を共同活動に位置づけ、作付け時期等の工夫や植栽活動の集約化を実施。



土砂上げ



農道の砂利補充

#### 取組の効果

- 地域の共同活動により、維持管理労力の低減に繋がった。
- ひまわりの植栽は町全域で推進され、植栽活動の集約化等により、単なる観光資源にとどまらず、町づくりのシンボルとしてブランド化
- 観光客の増加や消費者へのPRに寄与し、ひまわりライス等の高付加価値化やひまわり油の販売促進など6次産業化に繋がっている。



刈り取り風景



ひまわり油



### しべちやにしちくのうち・みずほぜんたい 標茶西地区農地・水保全隊 (北海道標茶町)

- 本地域は、北海道の東部に位置する大規模酪農地帯にあり、釧路湿原に隣接していることから貴重な野生動植物の生息地として生態系保全が特に重要な地域である。
- このため、施設の適正な保安全管理に取り組みるとともに、畜産排水が生態系や環境の保全に与える影響に配慮し草地の土砂等が湿原に流出しないよう沈砂池の適切な管理に取り組んでいる。
- これにより、地域に一体感が生まれ、遊休農地の発生を防止するとともに担い手農家への農地集積へとつながり草地の保全が図られている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 1,613ha (草地 1,613ha)
- ・資源量 水路 13km、農道 20km
- ・主な構成員 農業者、非農業者、JA
- ・交付金 約 4百万円 (R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

### 活動開始前の状況や課題

- 本地域は、日本最大の釧路湿原に隣接し、特別天然記念物であるタンチョウのほか、イトウ、キタサンショウウオなど多くの希少種が生息している。
- このため、草地からの土砂の流出、雑草やゴミの拡散の防止など生態系保全に配慮すべき地域であった。
- また、離農者の増加による担い手農家の不足などから農地や施設の保安全管理の粗放化による遊休農地の発生が懸念されていた。

### 取組内容



- 生態系や環境の保全のため農地からの土砂流出を抑制する大規模な沈砂池(7カ所)の土砂上げを定期的を実施。
- 排水路や農道の草刈りや後の適正処理とあわせ、施設周辺のゴミ拾いを行う環境保全の取組を実施。



草刈り

### 取組の効果

- 沈砂池の適正な管理により、畜産排水は環境への負荷を極力低減させて排出している。
- 地域の環境保全に取り組む意識が向上し、地域の一体感が生まれ、担い手農家への農地集積が図られている。
- 遊休農地の発生を抑制し、平成20年度以降、遊休農地は発生していない。



土砂上げ

土砂を沈殿させ湿原へつながる河川に排水して、湿原への土砂流入を抑制している。(土砂上げ後)  
※令和4年度 土砂浚渫量 284立法メートル



えんがるちょうかんきょうほぜんこういききょうてい  
遠軽町環境保全広域協定

えんがるちょう  
(北海道遠軽町)

- 本町は、遠軽町・生田原町・丸瀬布町・白滝村の3町1村が合併した町であり、平成27年度より全町の農用地を対象に広域協定として開始した。
- 農業用排水路等の農業用施設の老朽化、過疎化・高齢化の進行と経営規模の拡大による地域資源保全のための担い手不足に起因する維持管理負担の増大、さらには、地域コミュニティの低下が懸念されている状況であった。
- 加えて、外来種の増殖と担い手不足による農地や農業用施設の維持管理の低下により、多面的機能の発揮が阻害される恐れがあったため、地域一体となった取組を目指すことを目標とした。

- 【地区概要】※R4年度時点
- ・ 認定農用地面積 6,029ha (畑 3,078ha、草 2,951ha)
  - ・ 資源量  
開水路 74km、農道 135km
  - ・ 主な構成員  
農業者、非農業者、JA、NPO法人、自治会(行政区)
  - ・ 交付金 約51百万円(R4)

農地維持  
支払

資源向上  
支払  
(共同)

資源向上  
支払  
(長寿命化)

### 活動開始前の状況や課題

- 外来種の増殖と経営規模の拡大による地域資源保全のための担い手不足による農地や農業用施設の維持管理の低下により、多面的機能の発揮が阻害
- 過疎化等の進行により、地域コミュニティの低下が懸念
- これらのことから、「魅力あるふるさとづくり」として、本来の生態系を守るために外来種の駆除や農地を活用した植栽により、魅力的な農村景観の形成を図ることとした
- また、地域住民との交流や学校教育との連携を図り、活動を通じて地域の魅力を再認識することや、農村コミュニティの活性化を目指した

### 取組内容



- 特定外来種のウチダザリガニ駆除を町民ボランティア団体と連携して年2回実施
  - ・ 町内の子供達と一緒に捕獲活動を行うことで農村コミュニティの活性化に繋がる
  - ・ 捕獲したウチダザリガニは素揚げ等に調理し参加者間で食することで地域の交流に繋がる



子供たちの捕獲の様子



素揚げ



食事の様子

### 取組の効果

- ウチダザリガニ駆除などを通して、地域住民との交流や学校教育との連携が図られ、農村コミュニティの強化につながった
- 地域内の54haでキカラシなどを植栽したことにより、良好な景観を維持し、魅力的な農村の形成を図ることができた



キカラシの植栽

その他

生態系保全・環境保全型農業に関する取組

組織の広域化・体制強化

# 農振農用地区域外の農地との一体的な取組(水田貯留機能増進)

びっぷちょう びっぷちょう  
**比布町広域協定 (北海道比布町) [R4年度 4組織広域化]**

平地農業地域

- 本地区では、大雨時に農業用排水路や小河川の溢水のおそれがあるなど、洪水対策が地域の大きな課題となっており、田んぼダムによる地域の水田貯留機能を向上させる取組への関心が高まっていた。
- 市街地周辺部では、農振農用地区域内の農用地と区域外の農用地が錯綜しており、これら農用地での一体的な取組により、より効果的な洪水軽減対策が図られると考えていた。
- 活動組織の役員が中心となり、水田貯留機能増進の必要性を地域内の農業者に対して説明し、田んぼダムの取組や広報活動等を通じた防災意識の向上等、防災・減災の取組を開始することとなった。



**【地区概要】※R4年度時点**

- ・ 認定農用地面積2,002ha (田2,002ha)
- ・ 資源量  
開水路 484km、農道 188km
- ・ 主な構成員  
農業者、非農業者、JA、土地改良区、自治会(行区)
- ・ 交付金 約75百万円(R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

キーワード  
 地域防災(田んぼダム)の取組  
 組織の広域化・体制強化

## 地域の現状

- 本地域は、石狩川、比布川、蘭留川などの流域に囲まれており、平坦な地形であることか、小河川や排水路の溢水など洪水対策が地域の大きな課題となっていた。
- 施設の老朽化に加え、近年の集中豪雨により、排水路の倒壊や法崩れが度々発生していた。



大雨後の農地状況 増水による法崩れ

## 取組内容

- 水田貯留機能増進のため、水位調整施設の整備を実施。
- 大雨が予想される場合、町内防災無線にて田んぼダムを周知し、落口の調整作業を実施している。



落口の調整作業 落口樹、配水管、調整板の整備 畦畔再構築 看板による田んぼダムの取組の啓発・普及

## 取組の効果

- 活動を通じて地域全体で農業用施設を守り、防災・減災に取り組もうと意識が向上した。
- 農振農用地区域外の農地含め地域で一体的に取り組むことにより、市街地周辺の河川・小河川・排水の合流部の水位が低下し、冠水被害が低減した。
- 落口柵・排水管・調整板の更新、畦畔の再構築の実施により、水田貯留機能が向上し、下流域の冠水被害が低減した。  
 (整備面積:548ha 整備箇所:777箇所)



減水効果